

整理番号	25-2	事務事業名	広島輪厚線道路改修事業	作成部署	建設部土木課	電話	内線746
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 齊藤順二	課長職名	深尾 壮	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H13	根拠法令等	道路法				
〃 終了予定年度	H17						
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	本路線は、カ - プが連続し縦断勾配も急なため通行車両が道路を離脱するなどの事故が多発していることから、曲線の緩和と歩道を新たに設置し、通行の安全性を高める。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第 5 章)
	節	道路と交通	(第 3 節)
	施策	市内幹線道路・生活道路等の整備	(第 1 施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	本線を利用する通過車両及び近隣住民	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	現曲線部はカ - プが急であり、過去数年間の間毎年数件の物損事故が発生していることから、事故の危険性を未然に防ぐために、曲線緩和(視距改良)による通過車両の円滑な走行の確保及び歩道整備によりバス利用者等の安全確保を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	現況測量 L=510m・実施設計 L=420m・用地確定測量 L=240m 道路改修(延長) L=203m(幅員)車道W=5.50m+両歩道W=2.50m
		17年度	歩道造成(延長)L=197m(幅員)片歩道W=2.50m 路肩拡幅(延長)L=110m(拡幅巾)W=1.0m程度

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金		25,000	15,000	
	道支出金				
	地方債		10,000	6,000	
	その他特財				
	一般財源	1,750	15,000	9,000	
	合計	1,750	50,000	30,000	0
人件費 (概算)	人数(年間)	0.02	0.35	0.30	
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	180	3,150	2,700	0
総事業費 +		1,930	53,150	32,700	0

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	道路改修・歩道整備		203m	307m	
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	道路改修・歩道整備率 (整備済延長 / 全体延長)		40% (203m/510m)	100% (510m/510m)	
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	道路改修・歩道整備1m当たり		262千円 (53150千円/203m)	106千円 (32700千円/307m)	

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	本路線は、カ - プが連続していることにより事故が多発しているため、カ - プの緩和と、歩行者の安全確保について地元からの要望が強い。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市道整備であるため、市で施工するのが妥当。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	通過車両の円滑な走行や歩行者の安全が確保される。また、地元からの要望が強い。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	目的を達成する手段としては適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	受益者負担はなじまない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	急カ - プを緩くすることで、事故が減少する。歩行者と車両が、完全分離され安全な歩行空間が確保される。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	事業実施にあたっては充分にコスト削減を考慮して設計を行っている。既存の歩道を拡幅する箇所では、縁石や路盤を再利用しコスト削減を行っている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	17年度で終了する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり